

## X06b データアーカイブシステム MOKA2 の開発

吉田重臣（東大・理・木曾観測所）、青木賢太郎、市川伸一、伊藤孝士、高田唯史、西原英治、吉田道利（国立天文台）、洞口俊博（国立科学博物館）、浜部勝（東大・理）

我々は、岡山・木曾両観測所の CCD データアーカイブシステム MOKA（Mitaka-Okayama-Kiso-Archive）の開発を行ってきた。（94 年秋季年会 X22x、96 年春季年会 X05a）これは、有り合わせのハードウェアを用いたいわば試験的な性格を持つものであるが、95 年 6 月より運用を開始し、その有効性が多くの研究者に認められた。その一方、開発・運用を通じて様々な問題点も明らかになってきた。

今回これらの経験を踏まえて新たに MOKA2 の開発に着手した。新システムでは、専用マシンを三鷹および岡山・木曾両観測所にそれぞれ設置し、同時に、データアーカイブには必須となるマストレージも上記 3ヶ所に用意した。データベースマネージャには ORACLE を採用した。システム全体の規模は「すばる」望遠鏡用のアーカイブシステムとして想定されているものの 10 分の 1 程度になり、使用するデータベースマネージャも共通なので、「すばる」用システムのプロトタイプとしての性格がより強くなっている。

現在新システムは旧システムと同程度の機能を持つに至っている。新しい機能として、WWW を採用したクライアントサーバ化を実現したことが挙げられる。これにより、ネットワーク透過性が増すとともに、PC によるデータ検索が可能になりさらに利用が増えることが期待される。また、今後の検出器の大型化に対応して、大フォーマットデータプレビューワーを作成した。今後追加する機能として、各装置の視野を考慮した検索、環境モニタデータ参照、データの品質評価のための直接アクセス、自動データ配布システム等の開発を予定している。

すでに暫定的な公開が行なわれているが、なるべく早期に本格的な公開・運用ができるよう作業を進めている。